

ニュースレター第 28 号をお届けいたします。今号は樋野先生とスタッフの増田が担当します。

協調・協力 ～ 熱意と真摯なる姿 ～

樋野興夫（順天堂大学名誉教授、新渡戸稲造記念センター長、恵泉女学園理事長）



2025 年 4 月 26 日、2012 年 5 月 26 日 スタートした『お茶の水メディカル・カフェ in OCC』に出席した。多数の参加者であった。私は、別室で 6 組(8 人)の個人面談の機会も与えられた。大変貴重な時となった。まさに、新渡戸稲造(1862-1933)の『Union is Power』(協調・協力こそが力なり)の実感である。

スタッフの皆様の『熱意と真摯なる姿』には、ただただ感服する。まさに、【『私たちには、出来ることと 出来ないことがあるが、出来ることは 頼まれれば こばむものではない、いやとは言わない』】の実践である！これが『自己に目覚める』&『人格の実』であろう！

2025 年 4 月 29 日の朝日新聞に『国内最高齢 115 歳の女性死去』と記載されていた。『お茶の水メディカル・カフェ in OCC』でも、『人間の寿命』が話題になる。【『人類は、遅かれ早かれ 120 歳で死ぬ(旧約聖書 創世記 6 章 3 節)&『アダムは 930 歳、ノアは 950 歳、アブラハムは 175 歳、モーセの時代から 120 歳』&『人類は、なぜ、永遠に生きられないのか?』&『人間は生きて 120 年』&『なぜ、イブは、蛇の誘惑に負けたのか』& さらに『天国でカフェを開催する』のが、私の大きな夢である】と、いつも『冗談ばく さりげなく』語る。

『起こったことは 仕方がないのだから、そのことを前提に 最善を考えよう』が、『お茶の水メディカル・カフェ in OCC』の心得でもある。

3年ほど前から「お茶の水メディカル・カフェ in OCC」を手伝わせて頂き、樋野興夫先生の著書も何冊か読ませて頂きました。でも、樋野先生の著書は、とても沢山出版されているので、手始めにどれから読んだら良いのか分からないと言う方に、がん哲学外来メディカル・カフェが良く分かる本を紹介したいと思います。

それは、メディカル・カフェに初めて参加し、がんの告知を受けたばかりで、不安の中におられる方に、カフェのスタッフさんが紹介された、樋野興夫先生著『いい覚悟で生きる：がん哲学外来から広がる言葉の処方箋』です。



この本は初版が2014年11月に発行された本で、樋野先生が面談された多くの“がん患者”ご本人やご家族の方々に話された、さまざまな「言葉の処方箋」が書かれています。ほんの一例ですが、がん患者さんご家族が、共に相手のことを思いやりながらも、その思いが上手く噛み合わず、相手の言葉を受け入れられなくて苦しんでいる時の樋野先生の言葉の処方箋など、多くの内容が素晴らしく、感心するばかりでした。

お茶の水メディカル・カフェ in OCC では、予約にはなりますが“がん哲学外来”を始められた樋野興夫先生と面談の時間も持てます。

また、参加者とスタッフが7~8名のグループに分かれておこなう「カフェ」の時間で、スタッフや参加者の方々のお話を伺うことも出来ます。でも、カフェの素晴らしさは、家族などの身内や仕事の同僚、親しい友達には話せないことを、聞いて貰うことが出来ることです。カフェに集う人は“他人”ですが、同じ“がん”で苦しむ経験をされた方々です。近しい人には言えないこともカフェでは言うことが出来ると言う方も多くおられます。どうか、多くの皆さまにカフェに参加して頂き、心のつらさを少しでも軽くして頂きたいと願っています。

がん哲学外来・お茶の水メディカルカフェ in OCC スタッフ 増田 謙

